

和泉短期大学図書館報

第23号

編集・発行 和泉短期大学附属図書館

2011年3月18日発行 〒252-5222 相模原市中央区青葉2-2-1 TEL 042-754-1133

下写真

「パネルシアターの会」小林雅代先生（関連記事P.3）



数字でみる和泉短期大学附属図書館 2009年度

蔵書数 63,191 冊

(全国短大平均 63,000冊)

所蔵雑誌 112 タイトル

所蔵視聴覚資料 1,744 点

整理図書冊数 2,077 冊

学生一人当たり蔵書数 129 冊

図書館資料費 471 万円

(全国短大平均 582万円)

学生一人当たり資料費 0.9 万円

年間貸出冊数 8,543 冊

(全国短大平均 5,289冊)

学生一人当たりの貸出冊数 17 冊

資料費に対する学生への還元率 約4.5倍に還元

全国短大平均値は『「日本の図書館」統計と名簿2009』（図書館調査事業委員会編 日本図書館協会）による。

『フィンランド、スウェーデンの図書館を訪ねて』

准教授 片山 知子



近年、北欧訪問の機会を得、その折、本来の訪問目的ではなかったのであるが図書館との興味深い出会いに恵まれた。

まず、2008年にフィンランドのヘルシンキ市でヘルシンキ大学の図書館を見学。建物は市の中心、元老院広場を囲む150年前に設計された建築群の中にある。重厚な円形の吹き抜けを持つ内部、貴重な古文書の収められた書架や回廊の様子は古めかしい時代を感じさせる。書架に並ぶどの本も革表紙の重々しい物で研究のための施設として管理が行き渡り、緊張しながらの見学であった。

続いてタンペレ市では設計コンペ作品による近代的で巨大な市立図書館を訪問した。上空から見下ろすと雷鳥の形を模した図書館である。全館の見学をしながらこの図書館の多機能さには高福祉国家として、社会教育にも力を入れている国ならではの施設として驚かされた。



人々の日常にすっかり溶け込み、老いも若きも大人も子どもも次々に入出入りする様子から、初めは何かの商業施設かと思うほどであった。自由に過ごせる広いエントランス。喫茶コーナーや研修室が並んで様々な集まりが計画されている階、パソコン、オーディオ設備の充実はもちろん、更に子どものための劇場まで完備しているのだった。書架の総延長は3kmになるという。収蔵物の総数が55万点、収蔵総書籍数が28万点。子どもの書籍の書架は緑色に塗られ一目で分かるように工夫されていた。



収蔵物の総数が55万点、収蔵総書籍数が28万点。子どもの書籍の書架は緑色に塗られ一目で分かるように工夫されていた。

大きなガラスの窓を背にして座り心地の良さそうな椅子の並ぶ一角で絵本を楽しんでいる子どもの姿があった。ちなみにこの図書館の一階にはトーベ・ヤンソンの物語「ムーミン」の展示館が併設されている。



そして2010年、スウェーデンのイエテボリ市。街の中心の大通りに人の出入りの賑やかな建物があった。建物の壁面のガラスには子ども向けの絵や本が楽しそうに展示されており、第一印象は本屋だと思った。

出入り口の横の部屋では演劇のパフォーマンスのワークショップが10人程の若者たちのグループで行われていた。ロビーでは飲み物を持って賑やかに大勢の人が立ったり、腰掛けたりして過ごしている。中央のエスカレーターが上階へ繋がっている。人の流れのまま奥へ進むと静かになり、書架が並ぶスペースがあった。所々に椅子やベンチも用意されている。まるでデパートのような図書館だった。やはりここでも市民利用の高さに驚く。

何れでも今話題となるOECDによる学力調査の上位に名を連ねる国々では図書館による貢献も大きいだろうと思われた訪問見学であった。



パネルシアターの会 開催

11月13日（土）、図書館主催の「パネルシアターの会」が開催されました。講師はパネルシアター作家・小林雅代先生（助手の現役保育士の方1名とともにご来校されました）。当日は学生61名が参加し、実際にパネルシアターの材料であるPペーパーを使って、制作の基本から学ぶことができました。一昨年度に続き、小林先生をお招きし



た2回目の講習会でしたが、今回もいろいろな活用ができる先生オリジナルの型紙を学生たちにプレゼントして頂きました。

「小林式」と呼ばれる効率のよいパネルシアター制作方法を教えて頂き、また先生の模範実演を織り込みながらの実践的な講習会となりました。今後の1年生の現場実習にも、4月から保育や幼児教育の現場に立つ2年生にとっても大変役に立つ内容を学ぶことができました。何よりも専門家の素晴らしい実演に直接触れることができたことは、学生にとって貴重な体験でした。



「絵本と子ども」

2年 吉田明日香



和泉短大の図書館には、「ちか100かいだてのいえ」（いわいとしお著）という絵本があります。同じ作者の「100かいだてのいえ」は以前聞いたことがありましたが、地下100階という絵本があるとは知らず、和泉の図書館で見て初めて知りました。

私は実際にこの絵本を、現場実習の部分実習のときに子どもたちの前で読んでみました。すると、子どもたちはみな目をキラキラ輝かせ、私が読む絵本を一心になって見つめてくれてい

るのが感じられました。絵本には、子どもたちを惹きつける不思議な魅力があり、読んであげることで、子どもたちの世界観、発想力や想像力がどんどんと広がっていくように思います。

「100かいだてのいえ」（地上バージョン）には、長さ1メートル以上もある大迫力の大型本もあり、こちらも和泉の図書館で借りることができるので、大変にお薦めです。

私は、いろいろな絵本を図書館で読むことで、自分自身も想像力が豊かになったと感じているので、今後は就職先で、そうした経験を子どもたちにぜひ伝えていきたいと考えています。

ご挨拶

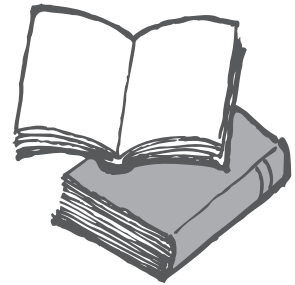
図書館長 井狩芳子



皆さんは、“C.D.”を何枚持っておられるでしょうか。私が想像するには、「そんなもの、持っていません！」という方が大半なのではないでしょうか？ 実際には、C.D.の中心購買層が40歳代以降という現状からみれば、ごくあたりまえな現象だと思います。「ダウンロード」という方法で音楽を十分に楽しみ、このようなプロセスを経て、真にお気に入りの曲と出会えたときには、若い世代の皆さんでも、“C.D.の購入”にいたるのだそうです。

同様に本の活用法も大きく変わってきていま

す。「日々変化する情報を得る手段」としてはその割合が減少していますが、本の魅力には、電子情報機器では得ることの出来ない「ページをめくる感触・紙のにおい・行間の自由な想像・読書の達成感」などを得ることができます。ほんの少し時間があるとき、一人の世界に浸りたいとき、ゆっくりしたいときなど、学生生活の知的オアシスとしての図書館に気軽にお立ち寄りいただきたいと思います。



とじょかんインフォメーション

図書館の蔵書検索性PCが新しくなりました

図書館内で本を検索するとき使用する、蔵書検索（OPAC）用のPCが新型になりました。明るい大型ワイド画面（18.5インチ）の液晶一体型で、色はホワイトです。以前のものより、操作レスポンスが向上しました。インターネットに常時接続していますので、簡単な調べものなどにも利用できます。（ただし長時間の占有はできません。基本は本の検索性としてお使い頂いています。）

また、電源を切ると、設定の変更や利用の履歴がクリアされる仕組みを導入しましたので、自分が操作した記録などの個人情報が残る心配がありません。

和泉の本の検索は、ケータイからももちろん可能ですが、やはり大きい画面で調べることができるPCは、学生たちに好評のようです。

